

# 15日 金曜

## Ⅱコリント

5:1 私たちの住まいである地上の幕屋がこわれても、神の下さる建物があることを、私たちは知っています。それは、人の手によらない、天にある永遠の家です。

5:2 私たちはこの幕屋にあってうめき、この天から与えられる住まいを着たいと望んでいます。

5:3 それを着たなら、私たちは裸の状態になることはないからです。

5:4 確かにこの幕屋の中にいる間は、私たちは重荷を負って、うめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいと思うからでなく、かえって天からの住まいを着たいからです。そのことによって、死ぬべきものがいのちにのまれてしまうためにです。

5:5 私たちをこのことにかなう者としてくださった方は神です。神は、その保証として御靈を下さいました。

5:6 そういうわけで、私たちはいつも心強いのです。ただし、私たちが肉体にいる間は、主から離れているということも知っています。

5:7 確かに、私たちは見るところによってではなく、信仰によって歩んでいます。

5:8 私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。

5:9 そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。

5:10 なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自の肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。



Bible Reference  
聖書の記述

コリント教会には問題（のある人々）が存在していましたが、パウロの先の手紙によってその問題点に気づきました。またパウロの厳格な対応によって、その混乱を起こす人も悔い改めました。しかしあなたとは、いっそう頑迷になってしまったのですが、パウロはそのことを考慮しつつも、コリント教会の人々に信仰の重要な基本を再教育しています。

その中でも重要なのが、永遠の命とそれによる復活です。それがどんなものであるかをパウロは説明しています。

幕屋とはモーセの時代に神がご自身を表したものであり、また移動可能な一時的な住まいでした。それはまさに私たちの肉体を表しています。肉体が機能しなくなったら何もかも終りになるとと思う人もいます。しかしそうではありません。何もかもが終りでないのです。むしろその後には、神のくださる建物があり、それは幕屋のような一時的なものではなく、恒久的なものなのです。

そのようなすばらしい約束に与（あずか）れるのは、人間の力や権威ではなく神によってであり、その保証は、救われたときに与えられた御靈なのです。ですから死が怖い、死に打ち勝つ信仰が欲しいという場合は、ただ聖靈により頼むことでその力が与えられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

